

## 第23回 カラス



河北潟にいるカラスは4種類です。

ハシブトガラスとハシボソガラスは1年中河北潟で見られるカラスです。ハシブトガラスは、体が大きくて、額からくちばしにかけてやや盛り上がっています。ハシボソガラスはハシブトガラスよりは小さく、くちばしは少しほっそりしていて額もすっきりしています。両種ともいろいろな鳴き方をしますが、ハシブトガラスの方が勢いよくカーカーと鳴く傾向があり、これに対してハシボソガラスは、ややぼそとした濁った鳴き声でガーガーと鳴くことが多いようです。両種とも人との距離が近い種で、都市部に進出して、ごみステーションのゴミを漁ったり、電柱に巣を作ったりするので、どちらかというとなんか嫌われている鳥と言えるようです。飛んでいたりとまっていたりする姿をよく見かけますが、冬に広葉樹の葉が落ちたときに河北潟を訪れると、堤防沿いの樹林や単木に以外に多くの巣が架けてあるのがわかります。

しかし、頭が良いというか好奇心が強いというか、カラスを観察していると、時々おもしろい行動に出会うことがあります。クルミの実を上空から落として割ったり、自動車に轆かせて中身を食べることはよく知られていますが、電線に逆さにぶら下がるカラスや、雪を滑り台にして滑っていたカラスを見たという報告もあります。このような特ダネに出会えることはなかなかありませんが、短時間の観察でも、ちょっとした仕草のなかに明らかに遊んでいることがわかる時があります。

ミヤマガラスは、冬に大陸から訪れるカラスで、群れをつくって河北潟で冬越します。河北潟では、最近になって越冬数が増えてきた鳥です。数100羽程度の群れで移動することもあり、冬のこの大群はたいへん目立ちます。細く先の尖ったくちばしと、ハシボソガラスより少し小さくスリムなカラスです。成熟すると嘴の根元の部分が禿げて白っぽく見えます。冬の田んぼに降り立ち、群れで餌をとっている場面をよく目にします。

コクマルガラスは、良くミヤマガラスの群れに混ざって見かける小さなカラスです。普通は黒いカラスなのですが、稀に首から腹部にかけての羽毛が白い淡色型の個体が出て、パンダガラスなどと呼ばれています。河北潟では冬季限定のカラスです。

その他、河北潟に普通に見られる鳥の中では、オナガもカラスの仲間です。カラスというには似つかわしくない、長く美しい青色の尾羽を持つきれいな姿をしています。しかし、鳴き声はだみ声で、たしかにカラスの仲間だと納得します。(文 高橋 久)